

# 福童町遺跡 11

—福岡県小郡市福童所在遺跡の調査報告—

小郡市文化財調査報告書第293集

2015

小郡市教育委員会

## 序

小都市福童で初めて埋蔵文化財の発掘調査が行われたのは、平成16年のことです。それまでは、中世戦記文学『太平記』に記された「福童原合戦」により、南北朝期の史跡所在地として知られていた地域でした。しかしその後の10年間の発掘調査により、縄文時代から近代にいたるまでのさまざまな新資料が発見され、新たな姿を見せ始めています。

埋蔵文化財は、地域の歴史を手繰るうえで欠かすことのできない貴重な文化遺産です。その多くは発掘調査ののちに消滅してしまいますが、残された記録がわたしたちのふるさとの歴史を広く、深く知るための鍵となるのです。本書が、郷土の歴史をより深く、厚みをもったものとして次の世代へ伝えるための一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが、今回の調査において工事関係者各位と地元西福童区のみなさまには多大なご協力をたまわりました。記して感謝申し上げます。

平成27年3月31日

小都市教育委員会

教育長 清武 輝

## 例言

1. 本書は小都市福童に所在する埋蔵文化財包蔵地・福童町遺跡地内で計画された、宅地造成に先立って実施した発掘調査の報告書である。
2. 本報告書に掲載した遺構図面は調査担当者が作成した。
3. 発掘現場での個別遺構写真は調査担当者が撮影し、遺跡全景写真の撮影については有限会社空中写真企画に委託した。
4. 出土遺物の洗浄・復元には衛藤知嘉子・佐々木智子の協力を得た。遺物実測は調査担当者が、遺構図面及び遺物実測図の製図は久住愛子が行った。
5. 本調査に関わる出土遺物・写真・カラースライド等は小都市埋蔵文化財調査センターにて保管している。広く活用されることを希望する。

## 凡例

1. 本書で用いた北は座標北を基準とし、図上の座標は国土座標第Ⅱ系（世界測地系）に拠っている。
2. 本書で用いた標高は東京湾平均海水面（T.P.）を基準としている。
3. 本書で用いている略号は以下のとおりである。

溝状遺構：SD    ピット：SP    不明遺構：SX

## 本文目次

I. 調査の経緯と経過	1
(1) 調査の経緯	
(2) 調査の組織	
(3) 調査の経過	
II. 位置と環境	2
(1) 地理的環境	
(2) 歴史的環境	
III. 福童町遺跡11の遺構と遺物	4
IV. 調査成果のまとめ	7

## 挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図(S=1/25,000)	3
第2図 調査地位置図(S=1/5,000)	3
第3図 出土遺物(S=1/4)	4
第4図 福童町遺跡11 遺構配置図(S=1/100)	5・6
第5図 溝状遺構 土層断面図(S=1/40)	7
第6図 周辺調査区と今回調査地点(S=1/2,000)	8
第7図 明治期地籍図と調査区的位置関係	9

## 写真図版目次

図版1	①福童町遺跡11 全景(直上から、写真上方が西)
	②福童町遺跡11 全景(南から)
図版2	①1号溝状遺構 完掘状況(西から)
	②2号溝状遺構 土層断面(東から)
	③2号溝状遺構 完掘状況(西から)
	④3号溝状遺構 土層断面(東から)
	⑤3号溝状遺構 完掘状況(北西から)
	⑥4号溝状遺構 土層断面(東から)
	⑦4号溝状遺構 土層断面(西から)
	⑧4号溝状遺構 完掘状況(西から)

## I. 調査の経緯と経過

### (1) 調査の経緯

小都市福章は、平成19年3月に小都市役所都市計画課により一部が「市街化区域」に編入されたことにより、近年道路改良工事や宅地造成といった開発行為が頻発している地域である。これに伴って、平成16年度から14次にわたる発掘調査（福童東内畑遺跡・福童法司遺跡を含む）が実施されており、古墳時代の集落と中・近世の集落を主体とする複合遺跡であることが明らかとなっている。

本遺跡の調査は、平成23年度に宅地造成に先立って「埋蔵文化財の有無に関する照会」（事前審査番号1137）が提出されたことに始まる。これを受けて試掘調査を実施した結果、埋蔵文化財の存在を確認したため、新設道路部分については発掘調査による記録保存が必要な旨の回答を行った。

その後、開発業者と小都市教育委員会で協議を続け、平成25年度事業として発掘調査を実施し、翌年度に調査報告書を刊行することで同意を得た。

### (2) 調査の組織

調査に関わった組織と担当者は下記のとおりである。

<小都市教育委員会>

教育長 清武 輝  
部長 佐藤秀行  
文化財課長 片岡宏二  
係長 柏原孝俊  
技師 上田 恵

<調査参加者> 伊東みさ子 佐藤照子 松永康弘 宮崎隆明

(以上小都市在住、五十音順)

### (3) 調査の経過

発掘調査は平成25年7月16日から8月2日にかけて実施した。調査区はいずれも当時の現況G.L.から30～40cm下までの近年の耕作土を重機で掘り下げ、その後人力で遺構の検出・掘削を行なった。猛暑日の続く時期の調査であったため、調査参加者の体調に十分な配慮が必要となった。

以下に調査日誌より調査の経過の概略を記す。

平成25年7月16日 重機による表土掘削、機材搬入  
17日 測量作業実施、人力による遺構検出・掘削開始  
溝状遺構4条とビット群を検出  
以後随時写真撮影・遺構図化による記録作業を並行して実施  
31日 全ての遺構掘削終了  
8月1日 バルーンを使用した遺跡全景写真撮影  
2日 重機による表土埋め戻し、現地立会の上引き渡し

以後、図面・出土遺物の整理作業を実施。なお、引き渡し後開発工事が実施され、現在遺跡は消滅している。

## II. 位置と環境

### (1) 地理的環境

小郡市は、宝満山から派生して筑後川へ合流する宝満川によって東西に二分され、右岸には脊振山系に由来する丘陵（通称・三国丘陵）が、東岸には花立山（城山）があるほかは、低台地と沖積平野が広がる見晴らしの良い地域である。三国丘陵は南へ行くにしたがって緩やかに台地へ移行し、これが筑後平野へ連なっている。低台地は河川の浸食によって舌状に独立した形状を示し、この台地上には数々の遺跡が残されていることがこれまでの発掘調査によって確認されている。

今回調査した福童町遺跡は、低台地とその間にある谷底平野にまたがって展開している。

### (2) 歴史的環境

「福童」の地名は「福同」もしくは「福堂」の表記で南北朝期の文献から登場し、中世戦記文学『太平記』に記された福童原合戦で特に著名である。現在の行政区では東西に二分されており、西は佐賀県鳥栖市・三養基郡基山町に接する。近年道路改良工事や宅地造成に起因する発掘調査事例が多い地域であり、中・近世を中心に歴史的様相を復元できる考古資料が次々と確認されている。以下、周辺地域に分布する遺跡を中心に、当該地域の歴史的環境の概要を示す。

小郡市域における旧石器・縄文時代の遺構・遺物は花立山周辺の限られた地域で散見されるのみであるが、福童町遺跡6（12）では鐘崎式土器の破片が出土している。

弥生時代になると、まず三国丘陵上に集落・墓域・生産域が開発され、やがて市内全域で本格的な集落経営が始まる。中期には小郡（1）・大板井（2）両遺跡に拠点集落が成立し、大板井遺跡出土銅戈や小郡若山遺跡（3）出土多鈕細文鏡といった祭器を有する集団が、この地域で権勢をふるったと考えられる。寺福童遺跡4（8）では中期の銅戈9本を埋納した遺構を、寺福童遺跡5（6）では前期の本棺墓、中期の甕棺墓群を検出しており、今回調査区の周辺でも集落経営が行われたと思われるが、その具体的な位置・規模はまだ明らかとなっていない。

古墳時代には、大崎小園遺跡（5）・福童町遺跡1（16）といった前期の集落や、方形周溝墓を確認した寺福童遺跡1（10）のような墓域が認められ、これが寺福童遺跡4・寺福童内畑下道東遺跡（9）のような後期から末期にかけての集落・墓地へとつながると考えられる。

飛鳥・奈良時代には、小郡市域は「筑後国御原郡」と称され、日方・板井・長柄・川口の四郷を有する地域であったと記されている。御原郡を支配する郡衙は、寺院の施設を持つ初期評衙とされる上岩田遺跡（19）から小郡官街遺跡（1）、大刀洗町下高橋官街遺跡への変遷が確認されている。福童は筑後国と肥前国の国境（現・佐賀―福岡県境）に面しており、この境界に沿って西海道が設置されていた。集落の展開や桑里制の施行において、西海道の存在は大きな影響を及ぼしたと思われるが、この時期の遺構・遺物は寺福童遺跡2（11）・3（7）などでわずかに確認されているのみであり、今後の調査に期待される。

中・近世の遺跡は、この地域で比較的多く確認されており、福童山の上遺跡2・3（4）の井戸や掘立柱建物を伴う中世集落や、福童山の上遺跡4（4）で出土した輸入磁器の存在は特筆に値する。また中世の西福童区は南北朝期の合戦の舞台であり、これを受けて農村地帯がどのような展開を見せたのか興味深い。

江戸時代の福童は久留米藩の財政を支える農村地帯であった。福童東内畑遺跡（17）でまとまった量の肥前系陶磁器が、福童町遺跡9（18）では墓域が確認されているが、これらは明治初期の地籍図による田畑が広がる田園地帯に相当し、集落域の中心部には未だ調査の手が及んでいない。今後、当時の集落経営や土地利用を検討することが可能な調査が待たれる。

このように本遺跡の周辺では、時期によって資料の疎密があるものの、弥生時代以来ほぼ連続と人間生活の営みが続けられてきた。

### Ⅲ. 福童町遺跡 11 の遺構と遺物

調査区は、既調査地である福童町遺跡 10 の南東に近接する約 320m<sup>2</sup>の区画である。遺構の掘り込み面は褐色ローム（基盤層）で、標高 12.5m 前後を測る。田畑として使用する際に整地が行われたよう点で検出面はほぼ平坦であり、耕作時のものと思われる浅い攪乱土坑・ピットが調査区北側を中心に点在している状況であった。

遺構の密度は非常に低く、出土遺物も小片が極少量認められるのみである。これまでの発掘調査から、本調査区周辺は集落内の生産域と想定される地区であり、今回の調査もそれを裏付ける結果となった。調査区内では、溝状遺構 4 条とピット群を検出している。いずれも浅く、残存状況は悪い。またピット群のうち、掘立柱建物を構成すると考えられるものは認められない。

#### 1号溝状遺構（第4図、図版2）

調査区北側に位置する。東西方向へ流れ、南へ向かって緩く湾曲する。西端は調査区内で終息し、東は調査区外へ延長する。壁面は緩やかに立ち上がり、断面はU字型を呈し、幅 0.35m を測る。残存する深さは 5cm 前後で上部は大幅に削平を受けている。埋土は黒色シルト単層で、出土遺物は認められない。

#### 2号溝状遺構（第4・5図、図版2）

調査区中央南寄りに位置する。北西—南東方向へ流れ、非常に緩いS字を描いて屈曲する。東西端とも調査区外へ延長する。壁面は緩やかに立ち上がり、断面はU字型を呈し、黒—黒褐色土が水平に堆積する。幅 0.4m、深さ 0.15m を測り、上部の大半は削平されている。出土遺物は陶器の体部小片が見られるのみである。

#### 3号溝状遺構（第4・5図、図版2）

調査区中央南寄りに位置し、西半部は2号溝状遺構と並走して、北西—南東方向に斜めに流れる。両端ともに調査区外へ延長し、4号溝状遺構に切られる。壁面は緩やかに立ち上がり、断面はU字型を呈し、黒—黒灰色シルトが水平に堆積する。幅 0.5m、深さ 0.2m を測り、上部は大きく削平されていると考えられる。出土遺物は皆無であった。

#### 4号溝状遺構（第4・5図、図版2）

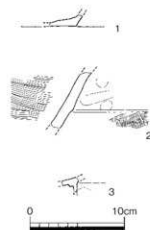
調査区南寄りに位置し、東西方向に流れる。両端は調査区外へ延長し、3号溝状遺構を切る。壁面は外傾して直線的に立ち上がり、断面は台形を呈する。幅 1.2m、深さ 0.6m を測り、黒褐色土を主体とする埋土がレンズ状に堆積する。

#### 出土遺物（第3図）

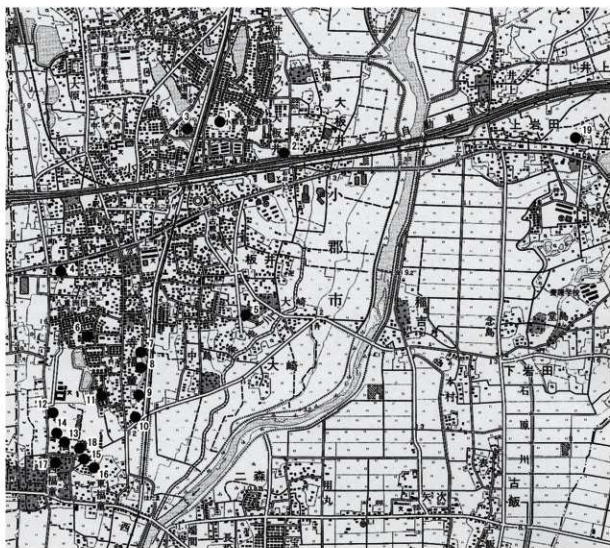
古墳時代の土師器・須恵器片と中世の遺物が混在しているが、いずれも小片であった。1は土師器杯の底部。底面に回転糸切りの痕跡が見られる。2は土師器の土鍋。体部のみが出土しており、外面に厚く煤が付着している。この他に、被熱による赤変が見られる、こぶし大の花崗岩礫が出土している。

#### その他の出土遺物（第3図）

1号ピットより、近世の所産である青磁碗の小片が出土している。全体に磨滅が激しい。

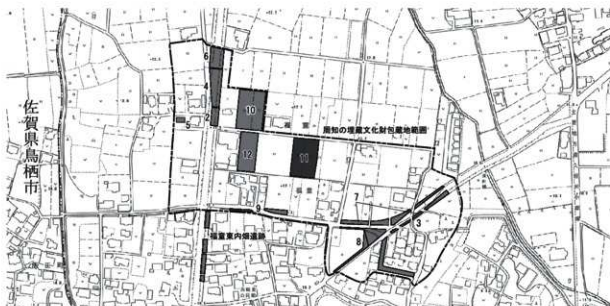


第3図 出土遺物 (S=1/4)



1 小郡 (小郡官衙) 2 大板井 3 小郡若山 4 福蔵山の上 5 大崎小園 6 寺福蔵5 7 寺福蔵3 8 寺福蔵4 9 寺福蔵内畑下道東  
10 寺福蔵1 11 寺福蔵2 12 福蔵町4・6 13 福蔵町11 14 福蔵町10 15 福蔵町3・7・8 16 福蔵町1 17 福蔵東内畑  
18 福蔵町9 19 上野田

第1図 周辺遺跡分布図 (S=1/25,000)



第2図 調査地位置図 (S=1/5,000)

Y=42260

X=42490

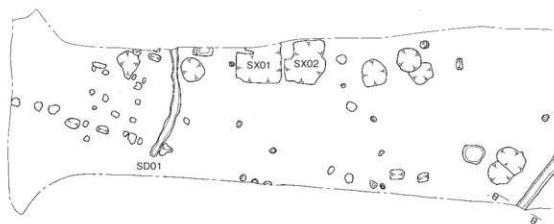
X=42480

Y=42270

Y=42280

X=42490

X=42480



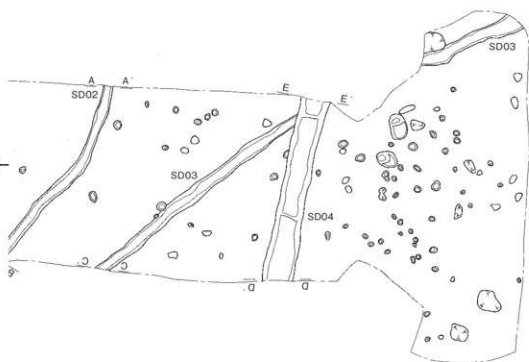
第4図 福童町遺跡 11 遺構配置図 (S=1/100)



X=42470

X=42460

Y=42260



Y=42270

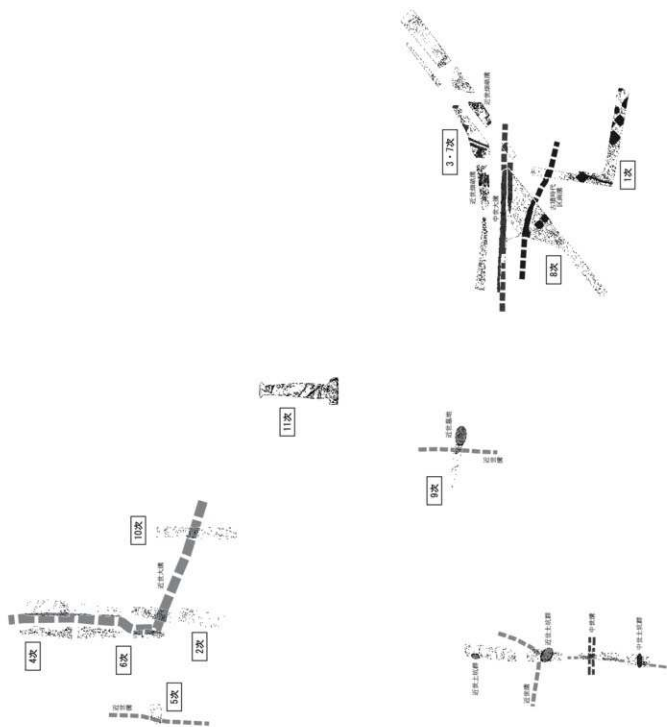
Y=42280

X=42470

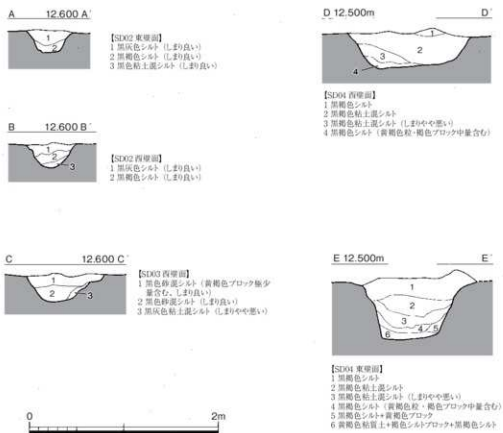
X=42460



\*下端を記入していない遺構は全て複乱



第6図 周辺調査区と今回調査地点 (S=1/2,000)



第5図 溝状遺構 土層断面図 (S=1/40)

#### IV. 調査成果のまとめ

本遺跡の所在する西福童区においては、本書で報告した遺跡も併せて計13箇所が発掘調査が実施され、弥生時代前期末から近世までの遺構が確認されている。弥生時代の遺構は溝状遺構1条(4次調査SD10)のみであることから、集落の様相については今後の調査成果にゆだねるが、古墳時代の遺構は1・3・8次調査でまとまりを持って確認されており、これ以上北へは延長しないことから、集落域の特定が可能であろう。古代の遺構は溝状遺構が複数確認されている。この地域は肥前・筑後国境に沿って整備された西海道を意識して条里区割がなされたと推定されているが、検出した溝状遺構は南北方向のものと東へ大きく振ったものがあり、それぞれの用途の詳細な検討が必要である。

中・近世の遺構は既調査地で最も多く検出されており、その範囲もほぼ全域にわたる。しかし、主体となるのは溝状遺構であり、その性格・用途は不明な点が多い。3次調査では北東-南西方向の区画溝と方位の一致する掘立柱建物群、そしてこれに後出する大溝2条を検出しているが、集落の様相そのものをとらえられるほどの遺構は確認できていない。同時期の土坑群は福童東内畑遺跡にも見られるが、両者の間には広い未調査地があり、その関係性を証明することは現状では難しい。この時代の遺構は10次調査でも確認しているが、非常に散発的であり、集落本体から外れた施設と考えられる。近世の遺構は、現在の周知の埋蔵文化財包蔵地の南限ラインで大きく様相が異なっている。これより南では土坑群・墓地といった集落の要素を示す遺構が確認されているが、北側では畑垣溝や水路用溝状遺構に限定され、いずれも残存状況が良好であるにも関わらず、出土遺物の量がきわめて少ない。今回調査区でも小規模な水路用溝状遺構を検出しているが、土師器・陶磁器の細片が微量に含まれているのみであった。明治期の地籍図ではこの範囲は田畑として記載されているが、これが近世までさかのぼれることが明確となったと言える。



第7図 明治期地籍図と調査区的位置関係



①福童町遺跡 11 全景 (直上から、写真上方が西)



②福童町遺跡 11 全景 (南から)



① 1号溝状遺構 完掘状況 (西から)



② 2号溝状遺構 土層断面 (東から)



③ 2号溝状遺構 完掘状況 (西から)



④ 3号溝状遺構 土層断面 (東から)



⑤ 3号溝状遺構 完掘状況 (北西から)



⑥ 4号溝状遺構 土層断面 (東から)



⑦ 4号溝状遺構 土層断面 (西から)



⑧ 4号溝状遺構 完掘状況 (西から)

## 報告書抄録

ふりがな	ふくどうまちいせき							
書名	福童町遺跡11							
副書名	福岡県小郡市福童所在遺跡の調査報告							
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第293集							
編著者名	上田 恵							
編集機関	小郡市教育委員会							
所在地	〒838 - 0198 福岡県小郡市小郡 255 - 1 Tel. 0942 - 72 - 2111							
発行年月日	2015 (平成 27) 年 3 月 31 日							
保管場所	〔写真・図面・遺物〕小郡市埋蔵文化財調査センター							
保管場所在地	〒838 - 0106 福岡県小郡市三沢 5147 - 3 Tel. 0942 - 75 - 7555							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	市町村 コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
福童町遺跡11	小郡市 福童	40216		33° 38° 22°	130° 54° 49°	20130716 ～ 20130802	320 m <sup>2</sup>	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			
福童町遺跡11	集落	中世 近世	溝・ピット		土師器・陶磁器			
特記事項	既調査地で確認されている溝状遺構と、今回調査地点で検出した溝状遺構は一連の施設を構成すると考えられる。但し遺構密度・遺物出土量とも非常に低いことから、当地域は近世・福童村の集落域ではなく生産域を構成していたと考えられる。							

### 福童町遺跡11

—福岡県小郡市福童所在遺跡の調査報告—  
小郡市文化財調査報告書第293集

編集 小郡市教育委員会  
福岡県小郡市小郡 225 - 1  
印刷 片山印刷有限公司  
福岡県小郡市祇園1丁目8-15